

授業科目名	発達心理学(2300133)		
時間割名	発達心理学(70201)		
時間割担当	高木悠哉		
実施期	前期	単位数	2 必修
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

看護の対象となる人々を、生涯発達の観点から理解するため、人間の心の発達とそのメカニズムについて学ぶ。また、それぞれの時期の発達の特徴や課題、障害についても取りあげ、発達にかかわる問題や困難についても理解を深める。

学習の到達目標

本講義では、発達という概念を理解すること、発達心理学の研究手法を学習すること、子どもから大人へと成長する青年期の発達心理学の基本的な研究知見についての知識を修得すること、を目標とします。また、青年期の発達過程を科学的に捉える視点の基本を学習します。

授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、パワーポイントおよびレジュメを活用しながら授業を進める。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

授業計画

- 第1回 発達心理学の意義
発達心理学的知見が、教育学、社会学、認知科学に及ぼした影響についての歴史を修得する。
- 第2回 発達とは何か
発達を定義し、生涯発達の考え方を学習する。成熟、学習、成長と発達の意味的差異を理解する。
- 第3回 発達心理学の研究法 実験計画法、心理学的な調査・研究の基本的枠組みを理解する。
- 第4回 遺伝と環境 青年期の発達の規定因としての、遺伝・環境の寄与について理解する。
- 第5回 発達段階説
青年期を中心にピアジェ・エリクソン・コールバーグの発達段階説を詳説する。
- 第6回 乳児期の発達の特徴
乳児期に見られる認知的、身体的、言語的な発達の流れを学び、その特徴を理解する。
- 第7回 児童期の発達の特徴
児童期における社会性(仲間意識や社会的勢力)、認知・知能的発達
- 第8回 青年期の発達の特徴(1) 中間試験
自己の確立は如何になされるのか。自己意識研究を中心に青年期の自己の発達を理解する。
- 第9回 青年期の発達の特徴(2) セルフコントロールの発達について、価値割引研究を中心として学ぶ。
- 第10回 青年期の発達の特徴(3) メタ認知の発達について、大学生の研究を中心に理解する。
- 第11回 青年期の発達の特徴(4)
青年期の社会性はどのように形成されるのか。他者影響力の自己認知研究を中心に学ぶ。
- 第12回 成人期・老年期の発達の特徴
社会生活を送る上で、キャリア発達、組織論的観点から、自己、他者影響力の発達について学ぶ。
- 第13回 発達心理学調査実習(1)
グループごとに青年期の発達研究テーマを1つ選択し、先行研究をまとめ、研究計画を立案する。
- 第14回 発達心理学調査実習(2)
研究計画を参照に、取得架空の予測データに従い、各グループで発表、全体で議論を行う。
- 第15回 授業の総括として、これまでの授業内容をまとめ、試験に向けた質疑応答を行う。

成績評価の基準

講義間で学生が自宅で行う予習レポートと毎回の小レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。(20%)
14回目の講義の発表の緻密さを評価する(20%)。中間試験において授業の理解度を確認する(20%)。さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する(40%)。

準備学習・復習及び授業時間外の課題

予習：講義の最後に次回の授業の資料を配布する。次週までにA4で1枚にまとめ授業に出席すること。
復習：毎回の講義の最後に小レポートを行い、その結果および点数を講義ごとに返却する。必ず再度見直し、試験に備えること

履修上のアドバイス及び留意点

講義時間内にお伝えします。

教材・教科書

テキスト・参考書：授業中に指示する

参考書

テキスト・参考書：授業中に指示する